

「かかりつけ管理栄養士」の存在意義を事例を交えながら発信

7月22日（土）、大阪樟蔭女子大学で「第4回管理栄養士と開業医がコラボする会」が会場＆オンラインのハイブリッドで開催された。当日は約100人が参加。会場には約60人が足を運び活発な議論が交わされた。

診療所の経営の安定化と患者満足度向上の両立へ

近年、低栄養が懸念される在宅高齢者や生活習慣病患者の重症化予防の観点から在宅栄養食事指導のニーズが高まっている。介護報酬においても「居宅療養管理指導費」を算定する診療所も増加傾向にある。こうした背景から、管理栄養士で大阪樟蔭女子大学健康栄養学部健康栄養学科教授の井尻吉信氏、医療法人松若医院院長の松若良介氏らが発起人となって2019年に「管理栄養士と開業医がコラボする会」を発足。さまざまな活動を通じて、診療所における治療効果の向上や診療所経営の安定化など、管理栄養士と開業医が協働することの有意性を啓発し続けている。

4回目の開催となった今回は、特別講演、一般講演、フリーディスカッションの3部構成で進行。開会に先立ち、松若氏は「回を重ねるごとに仲間が増え、内容も充

実している。当会を通じて管理栄養士の方々のキャリアアップを実現させたい」と挨拶した。

特別講演では、医療法人悠明会在宅医療センター悠（奈良県大和郡山市）の管理栄養士、藤村真依氏が登壇。「在宅療養者への食支援は私たちが管理栄養士は地域で何ができるのか」をテーマに、地域における在宅訪問栄養食事指導

の現状と課題など自身の経験を交えながら、在宅訪問管理栄養士の魅力や可能性について講演。「食を通じて心のケアも大切に、在宅患者さんやご家族の大切な時間に寄り添いたい」と述べた。

一般講演では、内科医院、調剤薬局の事例として、それぞれに所属する医師や管理栄養士が自身の職場での取り組みを発表。この内科医院には9人の管理栄養士が所

属し、受付や医療事務などを兼務することで患者を手厚くフォローしているという。また、調剤薬局では、管理栄養士が中心となって地域でイベントを開催するなど、行政を巻き込んだ事業に発展させたことが報告された。

フリーディスカッションではオンライン参加者も交え、さまざまな質問や意見が交わされ、活発な議論が展開された。

会場には大勢の多職種が集結した



フリーディスカッションでは活発な議論が交わされた



会場とオンラインのハイブリッドで情報を発信



発起人代表の松若良介氏



司会進行役を務めた発起人の井尻吉信氏



管理栄養士と開業医が
コラボする会ホームページ